

6月11日（日） ショートメッセージ

聖書 使徒言行録 2章22節～28節 （新約 215頁）

メッセージ 「ナザレの人イエスこそ」

イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です。神は、イエスを通してあなたがたの間で行われた奇跡と、不思議な業と、しるしとによって、そのことをあなたがたに証明なさいました。あなたがた自身が既に知っているとおります。（使徒言行録 2章22節）

（1）ペトロの説教の続きです。ここでペトロは聴衆の中のユダヤ人たちに向けて「イスラエルの人たち」、「これから話すことを聴いて下さい」と語り始めました。このあとペトロは何度も「あなたがたは」と繰り返しますが、この「あなたがたは」は、聴衆の中のユダヤ人たちの事です。

（2）ペトロはまず、ナザレの人イエスこそ神から示された方、神から遣わされた方ですと断言します。イエス様は地上において同胞のユダヤ人たちの前で数々の奇跡や不思議な業、神のしるしを行い、それを証明された。ペトロは「あなたがた自身がすでに知っているとおります」と指摘し、ユダヤ人たちを告発します。

そしてペトロは、神がお定めになった計画により、神はあらかじめ御存知の上で、イエス様をあなたがたに引き渡した。しかし、あなたがたユダヤ人はイエス様を、よりによってローマ人の手を借りて、律法を知らない不法の者たちとして一線を引いてきたあのローマ人たちの手を借りて、十字架にはりつけて殺してしまったのですと告発します。

しかし神は、イエス様を復活させた。それは、神がイエス様を死の苦しみから解放した出来事であり、神はイエス様を死の苦しみに支配されたままにはなさらなかった、そもそもそんなことはあり得ないことだと語ります。イエス様がユダヤ人たちの手に引き渡されたことも、そして十字架上

でのちを奪われたことも、イエス様が復活されたことも、すべて神の御手のうちにある出来事であった。このことを通して、神は御自らこの世界にご自身の御業を示された。ペトロはその場にいたユダヤ人たちに語りかけます。

そしてペトロは、ダビデの詩として伝えられてきた詩編16編8節～11節をイエス様について語られた詩として引用します。著者のルカはギリシャ語訳の聖書からこの箇所を書き写します。イエス様はいつも神と共にあった。イエス様はそれを喜び、神をたたえていた。だから神はイエス様を死の苦しみの中に置き続けることも、朽ち果てるままにもしておかれない。ペテロはこの詩編の言葉を引用することによって、イエス様の復活は、ダビデの時代からユダヤ人の間で伝えられ続けて来たことであると伝えたのです。

（3）イエス様はガリラヤのナザレの出身です。都エルサレムの人々からすると地方出身の田舎者です。しかし、そのナザレの人イエス様こそ神によって世に示され、遣わされた者である。

そしてこのイエス様によって、あなたがたの罪と過ちが露わにされたが、このこともまた、人知を超えた神のご計画の一部であり、神のみ手のうちにある出来事である。ペトロの指摘は「あなたがた」と呼ばれたユダヤ人たちの心を強く揺さぶったことでしよう。（多田玲一牧師）